

CONTENTS

- 02 特集 水資源機構60年記念対談
独立行政法人水資源機構
理事長 金尾健司／気象予報士 今村涼子さん
- 08 連載 江戸期の水の技術者 群像
第5回(最終回)
農政家二宮尊徳と治水家船橋随庵
作家 高崎 哲郎
- 14 連載
気象キャスターが解説! 天気のカタ
第29回 大雨シーズンに備えて
気象キャスターネットワーク 鈴木 智恵
- 16 トピックス
第4回 アジア太平洋水サミット参加報告
- 18 トピックス 水資源機構技術士会
- 19 水機構ニュース
- 22 第36回
“水とのふれあい” フォトコンテスト
入賞作品
- 24 今号のピックアップムービー

水資源機構 60年 記念対談



気象予報士
テレビ朝日「スーパーJチャンネル」
お天気キャスター

今村涼子さん

独立行政法人水資源機構
理事長

金尾健司

創立60年を迎えて

金尾 今日は今村さんとお会いできることを本当に楽しみにしております。当機構の創立60年を祝う記念対談に相応しい、華やかな今村さんとの対談が実現でき、大変嬉しく思っております。

今村 このたびは水資源機構創立60年おめでとうございます。そして、本日は記念対談にお招きにいただきありがとうございます。日頃から私たちの生活において水は当たり前での存在ではありますが、私も今年3月の地震で停電になって断水になったときに、蛇口をひねって水がでないことがどんなに不安か、その時に水の大切さを改めて実感しました。その水を安定に供給していただき、また、大雨による洪水の軽減にも尽力していただいている職員の皆様に対して、日頃から感謝しています。

金尾 ありがとうございます。そう言っていたけると大変嬉しいですし、職員の励みにもなります。当機構は、前身の水資源開発公団

の設立から今年丸60年を迎えたわけですが、この間、首都圏や中部圏、近畿圏などの大都市圏を中心とした全人口の半分以上がお住まいの地域に関わる7水系で水資源の開発・管理を行い、水を安定的に供給することで、我が国の国民生活の向上と産業経済の発展を支えてきました。

気象災害と伝える 立場から思うこと

金尾 一方で、私たちの仕事は気象災害との闘いでもあります。近年の気候変動による異常洪水や渇水などの気象災害リスクが高まる時代に、異常洪水にはダム的事前放流により治水機能を強化したり、利水においても無駄のないシビアな水管理を常に求められます。こうした状況を気象予報士の立場からどのように考えてしょうか。

今村 たしかに気象予報も難しくなりましたし、情報の伝え方が一番の悩みですね。私たちの使命としては防災が一番なので、空振りよりも見逃しをなくしたいという思いが

あります。しかし、見逃しを出したくないから、ほんの少しの大雨の可能性で予報しても、それはそれで逆にオオカミ少年になってしまう難しさもあります。メディアの天気予報は視聴率を意識している部分もあり、インパクトの強い情報をどうしても提供しがちになりますが、それは逆に、視聴者には煽りすぎた情報を提供することになり、混乱させる原因にもなります。視聴者への伝え方やメディアとの調整が非常に悩み所ですね。

金尾 難しいですね。どうしても防災になると安全側の（避難行動を促す方の）情報を提供することになりますし、おっしゃられたように、オオカミ少年になって視聴者が慣れてしまうとそれはそれで困りますもんね。



る行動と共に対応する必要があると考えています。伝える側の気象キャスターの立場からのご苦労とありますか？

今村 私は全国と関東地区を対象とした天気予報コーナーを受け持っています。それぞれの放送時間としては5分程度なので、どうしても短い時間の中で情報を広く浅めに伝えることになってしまいうのがジレンマですね。近年、気象庁の「キキクル（危険度分布）」や川の水位など河川のあらゆる防災情報が充実している中で、今やって欲しいことは、「視聴者が自分から情報を取り行ってもらおう」という意識を持つことですね。甚大な災害はピンポイントで起きるの



で困りますもんね。

今村 ただ、身の危険が及ぶ可能性がある場合には、視聴者自身の判断で安全行動をとってもらいたいですね。例えば、10回避避して何もないかもしれませんが、もしかしたら、11回目に本当に被害を受けるかもしれません。「避難しただけ何もしなかったではないか」ではなく、「避難して何もなくてよかったね」と思ってもらえるようになってほしいですね。

金尾 本当にそうです。被害にあった方の話を聞くと、「まさか自分が被害にあうとは」と皆さんおっしゃられます。「何もなくてよかった」と思ってもらうことが大事ですね。

ダムと水源地域の 魅力の発信

で、「自分の場所はどうなっているのか自分で確認する」ことが大事です。「避難場所を確認してください。」「避難経路を確認してください。」「は聞き飽きていると思うので：

金尾 今村さんには、ご自身のお天気コーナーでダムの水源情報や水源地域の様子をよく放送していただき感謝しております。今やダム好きとしても有名な今村さんがダム好きになったきっかけとあるのですか？

今村 一番のきっかけは、ダム好きのスタッフがいて2014年の矢木沢ダムの点検放流を見学したのがきっかけですね。見に行ったら予想以上の迫力に大興奮で、遊園地のアトラクション以上の面白さがありました。当時ちょうどダムブームになりかけていた時期でもあって、関東の一番北の山奥にこれだけ人がいるのが不思議で新鮮でした。そのあと何回かダムを見に足を運んでいくうちにだんだんダムに親し

大切なのは自ら 情報を取りに行く 意識

金尾 ダム管理では、降水量予測は非常にシビアで繊細です。大雨に備えた事前放流では、気象庁のGSM、MSSMの降水量予測からダムに流れ込む量を都度計算し、洪水調節容量が不足する場合、その不足量を利水容量から事前に放流して治水容量を確保します。他にも、水機構では、最大15日先まで予測可能なアンサンブル降雨予測情報を用いたダムの事前放流の高度化について、京大防災研究所と日本気象協会、水資源機構の三者合同での研究を行っています。気象庁では6月から線状降水帯の予測情報の提供が始まるようですね。最新の降雨予測の動きなど何かアドバイスいただけるものなどありますか？

今村 線状降水帯の予測については、6月から新しく運用が開始されます。近年、気象庁の予測は、細かく具体的に言及するように



なっています。これは良い面ですが、悪い面もあります。特に、気象庁の発信は、すぐくメディアの関心が高く、予測が外れた場合、世間に対して外れた感を強く印象付けてしまいます。

金尾 私たち施設を管理する側も、線状降水帯の予測はかなり難しく苦勞します。少しずれたりするだけで、まったく雨が降らなかったり、想定以上にたくさん雨が降ったりと、職員も振り回されていますね。我々も水のプロ集団として、ダムの洪水調節機能を最大限発揮できるようダム管理の高度化も進めていきますが、現実にはダムの防災機能にも限界があり、気象情報や避難情報からの命を守

と佇むダムが首都圏何千万人の水を支えていると思うと感動です。

金尾 同感です。5月1日の創立記念日に水機構7水系でダムのライトアップを行ったところ大変な反響がありました。私事ですが、ゴールデンウィークに東北の鳴子温泉へ行った際に、鳴子ダムのライトアップを見にいきましたが、レインボーのライトアップが絶景でしたね。

今村 いいなあ、有名な鳴子ダムのライトアップは見たことないので羨ましいです。

金尾 今のダムファンの広がりには、今村さんのような著名で発信力のある方がダムファンを公言いただいてい





SEA BIRD JAPANの皆さんとともに

高知県大川村村長にお誘いいただいた際に、地元の皆さんやダム職員と一緒に早明浦ダムのダム湖でパドルスポーツを楽しんだこともありました。水資源機構の職員は、ダムを地元の資源として地域振興に役立てていただくための様々な活動を地域の皆さんと一緒にやっています。特に、8月1日の水の日とその週の水の週間には各地のダムで様々な催しをやりますので、是非足をお運び頂き、そういった活動にもスポットを当ててもらえたら有り難いです。

今村 是非、行きたいです。ダムを地域振興に取り込むのは、非常に大事なことだと思います。点検放流のイベントも増えてきていい傾向だ



水源地域での 楽しみ方

金尾 ところで、今村さんは関西奈良のご出身とお聞きしましたが、実は私も京都宇治の出身で高校までは宇治市内に住んでいました。小さい頃は寺院や古墳、仏像が好きで、奈良県内の有名スポットによく足を運んでいましたねえ。

今村 えーすごいですね。今も巡ったりされているのですか？

金尾 今は全然ですけど、また落ち

うございます。ぜひチャレンジしていきたいと思います。



金尾 我々は、気象情報を使ってダムの防災機能を發揮して地域の安全で安心な暮らしを、支える立場、気象キャスターのお仕事も、様々な気象情報やデータを分析して視聴者に分かりやすく伝えることで共に暮らしを、支える立場“で共通するものを感じます。気象キャスターのお立場から我々への期待や求めることなど、おありですか？

今村 職員の皆様は、安全や防災

水機構への期待



と思います。最近はSUP（スタンドアップパドルボード）とかも流行っていますのでイベントに入れても良いのではないのでしょうか。

金尾 大水上山は群馬側からは厳しくて新潟側からの登山ルートのほうが楽に登れますが、どちらから登られたのですか？

今村 それが群馬県側からなんです。90度くらいの斜面が延々と続くイメージでもとても大変でしたね。しかも、泊まりではなく日帰りで行きました。今行ったら無理ですね（笑）。



に向かつて、日夜、最前線でお仕事されていて、本当にご苦労様としか言えないですね。私自身は気象状況を適切に伝えることしかできませんので…。災害等の中、ギリギリな状態で仕事をされていて、緊張感とかを想像するとすごく大変そうで、私だったら手の震える思いです。私としては、職員の皆様が適切な洪水調節や操作をできるための役立つ気象情報を発信していきたいですね。

金尾 水資源機構の職員と気象キャスターとは同じ使命を持っているのだなと対談を通じて感じました。本日は身になる楽しい話をたくさんさせていただき本当に良かったです。改めて、創立60年を迎えた当機構の今後において、今村さんはじめ、気象キャスターの皆さんとの関係を大切にしていきたいと強く思う一日にもなりました。今後とも引き続き、宜しく願います。今村さんの今後益々のご活躍を記念しております。お忙しい中、本当にありがとうございました。

今村 ありがとうございました。